

みどりの通信

西北農林水産事務所
農業普及振興室
五所川原市栄町10
電話0173-34-2111(代)
分室
つがる市木造桜木9-1
電話0173-42-2222

農業普及振興室の令和7年度重点普及指導計画(5課題)の取組結果を主体に紹介します。

1 良食味米として消費者に評価される「はれわたり」及び「青天の霹靂」の高品質・安定生産

「はれわたり」の良食味・高品質安定生産のために、栽培マニュアルに沿った栽培管理を広く周知・指導するとともに、県産ブランド米「青天の霹靂」のブランド維持のために新規作付者や出荷基準未達者に対して継続して重点的に指導を行いました。

<取組の成果等>

- ・指導拠点ほの設置、夏季現地巡回の開催により「衛星ナビ」の活用等について関係機関と意識統一を図りました。
- ・「はれわたり」生産者に対して、高温時の水管理について重点的に指導したほか、「はれナビ」の周知と適期収穫の徹底を呼びかけました。
- ・「青天の霹靂」新規作付者等に対し、集荷団体の指導員と連携しながら個別指導を行いました。
- ・その結果、「はれわたり」の管内J A一等米比率は98%、「青天の霹靂」新規作付者等の81%が出荷基準を達成しました。



プロジェクトチーム夏季現地巡回

2 稼げる「西北型水田農業」の定着に向けたスマート農業の活用推進

水田農業経営の大規模化が進行する中で、労働力不足等の課題に対応できるよう、令和元年からスマート農業技術の普及を推進してきた結果、スマート農機を導入する経営体が大幅に増加しています。しかし、その機能を十分に活かし切れていないため、効果的な活用によるメリットの追求と活用できる人財の育成に取り組みました。

<取組の成果等>

- ・衛星画像とAI分析による栽培管理システム「ザルビオフィールドマネジャー」を用いた可変追肥の実演会において、可変施肥マップのドローンへの取り込み、ドローンのセッティング等、詳細な操作方法について生産者の理解が深まりました。また、生育マップを活用した可変追肥により、収量が向上し、ほ場内の収量のばらつきが小さくなりました。
- ・労働力不足に対応し、多様なオペレーターを養成するため、普段機械作業をしていないスマート農機の初心者、後継者、女性農業者、新規就農者などを対象にオペレーター養成研修を実施し、技術の習得を図りました。
- ・トラクターに後付けで自動運転ができるG N S Sガイダンス自動操舵システムの導入で疲労軽減、作業効率や精度向上などによる生産性が向上するメリットが理解されました。



生育マップに基づく可変施肥の実演

3 交信攪乱剤を活用した適正防除の普及による高品質りんごの輸出基盤強化

青森県りんごの主要な輸出国の台湾において「モモシクイガ」は検疫対象害虫に指定されており、輸出された本県産りんご生果実から「モモシクイガ」が見つかった場合、県産りんごは即時輸出停止となります。国内の需給にも大きく影響する懸念があることから、完璧な防除が求められています。加えて、近年の温暖化により、慣行防除を行っている園地で「モモシクイガ」の被害果が増加しています。

このような状況から、県では令和6年青森県りんご病虫害防除暦から「交信攪乱剤」（コンフューザーR）を基準薬剤に格上げし、「モモシクイガ」対策を強化しました。農業普及振興室ではその効果や正しい設置方法等を周知し、普及拡大に取り組みました。

<取組の成果等>

- ・各共防連対象の病虫害防除講習会において、「モモシクイガ」等重要害虫の発生状況や交信攪乱剤設置を基準とした適正防除について周知しました。
- ・設置時期である5月に交信攪乱剤の設置実演会を開催し、交信攪乱剤の効果やその効果を最大限に発揮するための1樹当たりの設置本数、取り付け方法など正しい設置方法について周知しました。
- ・園地巡回や講習会等で、設置方法や設置時期などについて指導を行いました。
- ・その結果、令和7年産りんごの西北管内での「コンフューザーR」の設置面積は前年度の1,269haから1,542haに増加しました。



モモシクイガ等適正防除講習会

4 持続可能で活力のある農山漁村づくりを目指した「あおり型農村RMO」の育成

農村地域は人口減少と高齢化に伴う地域課題解決に向けて活動する地域運営組織等の育成が必要となっています。

「三好をあじあう会（五所川原市三好地区）」は、令和3年度から地域運営組織として育成支援により活動を主体的に進められるようになってきました。

また、令和6年度は、新たに、あおり型農村RMO候補者として「一般社団法人七和まちづくりネットワーク（五所川原市七和地区）」を発掘し、県単事業を活用して、ソフト及びハードの両面から地域活性化に向けた取組を支援しました。

その結果、あおり型農村RMOの取組要件6要素のうち3要素以上に取り組む地域営農組織に成長したものの、両組織とも稼ぐ力が脆弱であることから本年度は、今後の活動の継続、発展に向けて支援を続け、さらに他地区への面的広がりに取り組みました。

<取組の成果等>

- ・五所川原市及び板柳町の担い手育成総合支援協議会等と連携し、地域経営体の育成、共助・共存に向けた集落の意識醸成や、地域資源の発掘・活用、担い手育成等に対する取組を支援しました。
- ・地域運営組織である一般社団法人「七和まちづくりネットワーク」では、ジャズコンサートイベント、収穫感謝祭を開催したほか、鰐come祭りに「三好をあじあう会」と共同で出店し、自然乾燥米のPR活動を行いました。
- ・「三好をあじあう会」では、三好ザリガニ釣り大会、自然体験教室、交流拠点整備講習会、民泊講習会を開催し、イベントを通じてボランティア3名が活動に参加するようになりました。



三好をあじあう会 自然体験教室

5 中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及拡大

中泊町では令和5年度から中山間地域の薄市・今泉・宮野沢地区で農地中間管理機構関連農地整備事業の工事が始まり、ほ場整備が部分的に完成したことから、米価下落時のリスク管理や収益力向上の観点から野菜導入にチャレンジする動きが見られています。しかし、野菜栽培への技術的な不安があることから、栽培技術を実践しながら学ぶ仕組みや相談体制を整えるとともに、省力化や鳥獣害対策等の課題を検討し、高収益野菜導入の普及拡大に取り組みました。

<取組の成果等>

- ・今泉地区にトレーニングファームを設置し、とうもろこしを栽培しました。また、現地講習会や個別指導により技術習得を図るとともに、良品多収のための土づくりや排水対策の重要性への理解を深めました。
- ・トレーニングファームを拠点に薄市・今泉・宮野沢地区の農業者や関係機関で現地情報交換会を開催し、生育状況や課題等を共有しました。併せて、とうもろこしの播種作業の省力化に向け「目皿式播種機」による播種実演、鳥獣被害の現状や対策、電気柵の設置実演を行いました。
- ・情報交換会を開催し、薄市・今泉地区における野菜栽培の取組結果や課題、新品目の提案、野菜導入による収益力向上のためのロードマップや試算シートを関係者で共有し、今後の作付計画や目指す方向性を検討しました。
- ・その結果、中泊町の野菜導入経営体数が前年度の16戸から20戸に増加しました。
今泉地区では、とうもろこしに加え、ピーマンにもチャレンジする意向が示されました。



トレーニングファーム とうもろこし播種作業



目皿式播種機によるとうもろこしの播種実演

令和7年産「あおもりの旨い米グランプリ」受賞者の紹介

五所川原市 柳原真氏が「青天の霹靂」の部でグランプリを受賞しました。

柳原氏は稲わらのすき込みとケイ酸質資材散布による土づくり、ガス湧き対策としての中干し前の短期落水など、きめ細やかな栽培管理による良食味・高品質米生産を心がけています。



前列右から二人目が柳原真氏

令和7年11月、最新のスマート農業技術・機械とその活用事例を視察するためドイツ連邦共和国を訪れました。

① 世界最大規模の農業機械・技術の展示会「アグリテクニカ2025」

総勢50カ国以上から2,800のブース展示と約170カ国から50万人近い来場がありました。今回のテーマは「スマート農業の性能を体感しよう」で、自律型・自動化システム、農業ロボットなど様々な革新的技術が紹介されていました。農業機械へのAI（人工知能）の活用が進み、作物や土壌、栽培環境などの情報をリアルタイムでセンシング（検知・測定）、表示し、それを施肥や病害虫・雑草防除、生育予測などの生産管理に活用する技術が様々実用化されており、今後、生産現場への導入が進んでいくものと考えられました。

② スマート農業システムを取り入れ精密農業を実践している大規模経営体

デレンブルク村で農業を営むミュンホフさんは、経営にスマート農業システムを導入し、従業員含め7名で約1,000ha（地域でもトップクラスの経営面積）の農場を管理しています。土壌の養分、土質などの情報を重要視し、それに、作物の生育量などのセンシングデータを統合した「収量ポテンシャルマップ」に基づいた適切な施肥管理により、ほ場内の養分・生育ムラを改善し、最適な生産と肥料費の削減を実現していました。



精密除草機（高解像度センサーとAIにより雑草を判別しピンポイントで除草）



先進農家視察の様子（左奥が経営主、右奥が息子さん）

詳細は「農なび青森」に掲載しています。



りんご生産者の皆さん、今年も「コンフューザーR」を設置しましょう！

りんご果実を加害するモモシクイガ等の重要害虫は、近年は猛暑や使用できる殺虫剤の減少などにより薬剤防除だけで駆除することが難しい状況になっています。

青森りんごの品質や信頼を守り、安定した輸出により高価格を維持するため、特にモモシクイガ等重要害虫の徹底防除が求められています。

令和6～7年に行った調査研究により「コンフューザーR」を設置した園地内では、対象害虫であるモモシクイガやリンゴコカクモンハマキなどの交信が攪乱され交尾が阻害されていることが実証されました。

また、交信攪乱剤の設置作業ははしごが不要で、10a当たり30分程度、購入コストも一般的な殺虫剤の1～2剤程度です。

青森りんごの品質や信頼を守るため、モモシクイガ等重要害虫の薬剤防除に加え、「コンフューザーR」を設置することで徹底防除しましょう。